

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

内田 浩

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、ばいかご漁業全体の調査結果については、後述する「令和元年度の漁況」に記載した。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

当センター漁獲管理情報処理システムによる漁獲統計と各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向および漁場利用について検討を行った。

(2) 資源生態調査

漁業協同組合 J F しまね久手出張所および仁摩出張所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から本種の殻高組成を推定した。

3. 研究結果

(1) 漁業実態調査

令和元年のばいかご漁業におけるエッチュウバイの漁獲量は 69.7 トン（前年比 137.6%）、水揚げ金額は 3,596 万円（前年比 133.3%）であり、前年からは大きく増加した。平年（過去 10 年）との比較では、漁獲量で 108%、水揚げ金額では 119%に増加しており、現在の 3 隻体制となった平成 28 年以降では最も漁獲量は多かった。

漁場は、江津沖から島根半島沖の水深 190~210 m の範囲に集中しており、近年はほぼ同様の範囲で操業している。

平均価格は 516 円/kg、平年比 110%であった。平均価格は平成 2 年に 800 円/kg を超えたが、それ以降低下傾向を示し平成 22 年には 329 円/kg で過去最低、平成 23 年からは増加に転じ、平成 27 年以降 500 円/kg 台で推移している。

銘柄は特大、大、中大、中、小及び豆の 6 銘柄、小型銘柄の価格が高い傾向があり、小は 734 円/kg、豆は 804 円/kg であった。

(2) 資源生態調査

資源状態の指標となる 1 航海当たりの漁獲量 (CPUE) は 906kg、平年比 148%、近年は 700 kg 前後の高水準で推移しており、令和元年はさらに大幅に増加した。1 航海当たりの漁獲個数は 17 千個で平年比 132%であった (図 1)。資源は高水準にあると考えられる。

漁獲物の殻高は 40~120mm の範囲にあり、平成 28 年以降 40~80mm が平年に比べて増加傾向を示していた。しかし、令和元年は逆に低下傾向が見られた。小型群の減少は将来の資源低下に繋がるため、今後の資源動向については注意が必要である。

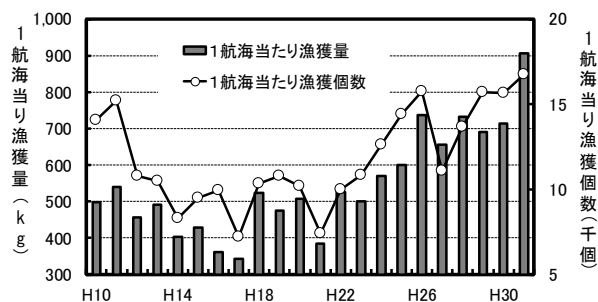


図 1 1 航海当たりの漁獲量および漁獲個数

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい籠漁業部会で報告した。調査結果は同部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限を設定し、使用かご数の制限などの資源管理が行われている。